

(第6条関係)

事業計画書

事業名	「笑顔のお節介推進活動」事業
団体名	介護・認知症の家族と歩む会・松戸

取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)	<p>松戸市年齢階層別</p> <table><thead><tr><th></th><th>平成25年</th><th>平成29年</th></tr></thead><tbody><tr><td>0歳～14歳</td><td>41,293人</td><td>59,403人</td></tr><tr><td>65歳～74歳</td><td>64,429人</td><td>65,544人</td></tr></tbody></table> <p>超少子高齢社会の今日、核家族、高齢者のみ世帯、単身高齢者世帯など家族間の人間関係が希薄になり、更に地域の日常生活に於いても家族の孤立化も進んでいます。しかも生活圏内の昼間人口は(生活人口)は増えているのに住民の過疎化と呼ぶべき現象が起きています。</p> <p>「都会の過疎化」～他人の行動に対し無関心になり、地域社会の互助の精神が希薄化～他人に関わる事への遠慮が続いています。平成29年松戸市の要支援・要介護認定では75歳以上が84.8%になっています。地域における孤独化も一因と推察できます。地域で安心して暮らし続けるための最大の課題は「笑顔のお節介」～互助の復活と考えます。</p>		平成25年	平成29年	0歳～14歳	41,293人	59,403人	65歳～74歳	64,429人	65,544人
	平成25年	平成29年								
0歳～14歳	41,293人	59,403人								
65歳～74歳	64,429人	65,544人								
事業の目的	<p>身近にある様々な不安・悩みを地域の主婦・シニア・若者が友人として、経験者として、身近にいて話をする事で不安や悩みが軽減することが出来れば、地域に笑顔が増えます。</p> <p>日常の不安や悩みを安心して、話せる人。「そうだね」と共感してくれる人。一緒に喜んだり、悲しんだりしてくれる人～(仮)地域パートナーを増やすことが目的です。それにより地域の人の笑顔を増やすことを目指します。</p>									
事業内容	<p>1 事業内容 地域の人々に向けて</p> <p>「おしゃべり広場」開設 ふらっと立ち寄った市民へ、手作り野草茶・ハンドセラピーの提供をしながら、おしゃべりを楽します。</p> <p>「交流会」開設 共通の話題の意見交換の場、地域パートナーの参加。</p> <p>「講座」開設 認知症パートナー・介護など講座「かがみ遊び」を組込む。</p> <p>「ワークショップ」開設 自分自身を知るための「宝山探し」他者の背景を知るための「かがみ遊び」等を行います。</p> <p>「相談会」開設 個人情報に関わるため、随時・適時開設</p> <p>参加者の中からともに地域での活動が可能な人と活動を推進します。</p> <p>「おしゃべり広場」「交流会」などに参加し、地域の人が安心して話が出来ると信頼を得た人が地域パートナーとして、生の声を聞く事から始めます。</p> <p>「かがみ遊び」「宝山探し」とともに潜在意識の気づきに繋がるプログラムです。</p> <p>「おしゃべり広場」「交流会」の会場は年間を通じ固定したいと考えています。</p> <p>「おしゃべり広場」「交流会」等に於、施設入所、相続、家族関係調整など専門職の関わりを必要とすることから、士業の講師も必要になります。</p>									

	<p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="491 226 1394 405"> <thead> <tr> <th></th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>毎月</td> <td>おしゃべり広場・交流会</td> <td>市民全般・市民センター</td> </tr> <tr> <td>偶数月</td> <td>ワークショップ</td> <td>市民全般・市民センター</td> </tr> <tr> <td>奇数月</td> <td>講座</td> <td>当事者・家族・市民センター</td> </tr> </tbody> </table> <p>おしゃべり広場・交流会は毎月、気軽に、何気なく立ち寄れることを目指しています。多くの市民（1回10人位まで）が、固定された会場に気軽に立ち寄れることを目指します。12回</p> <p>ワークショップでは、地域パートナーに必要な肯定的思考・潜在意識の気づきに依る、前向きな生き方の機会を提供します。6回</p> <p>講座のテーマは、個人が抱える不安や悩みと地域の課題とを結び付けたテーマとします。6回 講座にもワークショップ（20分）組み込みます。</p>		具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	毎月	おしゃべり広場・交流会	市民全般・市民センター	偶数月	ワークショップ	市民全般・市民センター	奇数月	講座	当事者・家族・市民センター
	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など											
毎月	おしゃべり広場・交流会	市民全般・市民センター											
偶数月	ワークショップ	市民全般・市民センター											
奇数月	講座	当事者・家族・市民センター											
<p>既存の事業からステップアップする部分 ※ステップアップ助成のみ</p>	<p>29年度までは、超高齢社会の抱える当面の課題、認知症にテーマを絞り「認知症に備える」為の啓発活動として、認知症の情報提供を認知症当事者・介護家族と周辺の人々を対象に活動してきました。その活動の中から、より鮮明に見えてきた、家庭間の人間関係の希薄化、さらに日常生活に於いても家庭の地域社会からの孤立化の解消に取り組みます。</p> <p>地域パートナーを増やし、聞き役としての活動と共に、ファシリテーターとして、ワークショップやおしゃべり広場に参加し、地域の人々の「つなぎ役」として生活圏内の市民個人と地域への情報提供と機会の提供活動を行います。</p>												
<p>事業の目標</p>	<p>初年度は地域パートナーとして、新たに10人増やすことを目指します。</p> <p>ワークショップの参加者10人/回を6回、累計60人、</p> <p>講座参加者15人/回を6回、累計90人、</p> <p>おしゃべり広場の参加者5人/回を12回、累計60人を目標とします。</p>												
<p>今後の展望</p>	<p>地域パートナーが中心になって、各地域で「おしゃべり広場」を定期開催すること。それにより、地域の人々が、お互いに支え合う事の出来る信頼関係の再構築を目指します。</p>												

(第6条関係)

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	会費	¥ 10,000	1000円×10人 支援会員
	協賛金	¥ 20,000	フリーマーケット売上等
	事業収入	¥ 35,000	500円×70人 講座参加費
		自己資金の合計額 (A)	¥ 65,000
市	市民活動助成金 (B)	¥ 200,000	
合計額 (C) = (A + B)		¥ 265,000	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 54,000	3000円×8人 5000円×6人 専門職等
	印刷製本費	¥ 40,000	チラシ20000枚両面 A3ポスター他
	消耗品費	¥ 27,000	A4・5000枚 インク20本封筒他
	通信費	¥ 62,800	ハガキ600枚 切手300枚 周知用
	委託費	¥ 48,000	2000円×24回 (1回に500枚) 新聞折り込み
	使用料	¥ 24,000	会場費 24ヶ所 1000円
	食糧費	¥ 9,200	薬草茶等製作費 おしゃべり広場・交流会等
		対象経費の合計 (D)	¥ 265,000
その他経費			
	その他経費の合計 (E)	¥ 0	
合計額 (F) = (D + E)		¥ 265,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。